

校長室より

第48号

「天空高き」



平成25年6月21日

『KAKEHASHI Project-The Bridge for Tomorrow -』

高水高校が主体となりカナダとの高校生交流事業を5月24日～26日に実施しました。

海外高校生との交流ははじめてで、準備期間も限られており、上手くいくかと少々不安に思っていました。しかし、見事な出来ばえで交流会を終えることができました。本当に本校の生徒のホスピタリティー、たくましさ、アイデアには感心し、誇りに感じました。

日本ユネスコ協会そしてポールケイン高校からの礼状、そしてカナダの生徒の感想を読み、あらためて、歴史、伝統や文化が違っても、心は通じ合えるということを実感しました。心より生徒の皆さんや関係者の方々には感謝致します。

この体験を大切に、そして継続していきたいと思ひますし、生徒の皆さんも今回の体験をもとに、日本の伝統文化をもっと深め、ツールとしての語学力に磨きを掛けてください。



相手を思う「心」を自然な {形} で表すことが礼法の神髄だ

小笠原流礼法



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟
National Federation of UNESCO Associations in JAPAN

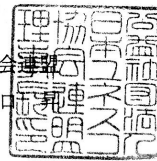
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126
Asahi-Seimei Ebisu Bldg. 12F, 1-3-1 Ebisu,
Shibuya-ku, Tokyo 150-0013 Japan
TEL:81-3-5424-1121 FAX:81-3-5424-1126
http://www.unesco.or.jp E-mail: nfuaj@unesco.or.jp

日ユ協連 13-45-3

2013年6月13日

高水学園高水高等学校
校長 前田 茂雄 様

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
理事長 野口



『KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow-』
カナダとの高校生交流事業（招聘）について（御礼）

謹啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

「KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow- カナダとの高校生交流事業」で来日いたしました、ポールケイン高校（カナダ・アルバータ州セントアルバート市）の学生 22名と引率教員 3名の計 25名は、おかげさまでもちまして去る 5月 30日、無事帰国いたしました。

準備期間が殆ど無いなか、5月 24日の「学校交流」では、心からの歓迎をしていただきまして誠にありがとうございました。宮本先生をはじめとする貴校関係者の皆様には大変お世話になりました。日本の高校生の生活紹介や夏祭り体験、書道・茶道といった日本文化体験、武道体験など、カナダの学生達にとりまして今回のプログラムの中でも初めて日本の学校で同じ高校生と時間をかけて交流する貴重な学びの一日となりました。また、ホームステイにつきましては、10日間に及ぶ今回の日本滞在の中で唯一、日本人の生活を直接体験し家庭の温かさを肌で感じる貴重な機会となり、忘れがたい最も大切な思い出となったようです。

ポールケイン高校の教員・生徒一同は、「本当に素晴らしい経験をさせてもらいました」「今回の経験を家族や友達など、出来るだけ多くの人に伝えます」「また日本に来たいです」とこもごも感謝の言葉を残し、興奮さめやらぬまま帰国の途につきました。これもひとえに貴校のお力添えの賜物と、重ねて御礼申し上げます。



Ecole Paul Kane High School

12 Cunningham Road, St. Albert, Alberta T8N 2E9
Phone: 780-459-4405 Fax: 780-459-0187
Email: paul_kane@spschools.org Web Site: <http://pkhs.spschools.org>

At Paul Kane High School everyone is dedicated to maintaining a caring and respectful environment in which all members are encouraged to reach their potential, develop lifelong learning skills, and contribute to the community.

Duncan Knoll, Principal
Jo Dodd, Assistant Principal
Liane Madsen, Assistant Principal

June 8, 2013

Principal Shigeo Maeda
Takamizu Jr. & High School
2-24-18 Ozu-machi, Iwakuni-shi
Yamaguchi-Ken, 740-0032

Dear Principal Maeda:

On behalf of the students and staff at Paul Kane High School I would like to send you our sincerest thanks for the incredible experience that you, your staff, your students and your homestay families created for us on our recent visit to Iwakuni and to Takamizu High School.

We thoroughly enjoyed our time at Takamizu High School and many of our students have made lasting friends with their homestay families. We thank you for the hours and hours of time it must have taken to prepare such an amazing visit for us. From the tour and cultural festival, to the music and food, to the tea ceremony lessons and the martial arts, calligraphy class and the science demonstration, we are eternally grateful. Our students are very impressed by the pride Takamizu High School students have in traditional arts, music, culture and theatre.

On the last day of our visit to Japan one of our students summed up how the Canadian students were feeling about the experience. She said, "The Japan we know in Canada is a mask that shows Japanese technology and Manga and Anime. Takamizu High School students and our Homestay families showed us what is under the mask." You opened up your hearts and school and homes to us. You invited us into modern Japan and the wonderful historical culture of Japan. You showed us "Cool Japan."

I am enclosing a calendar for our 2013-2014 school year to help you plan the timing of your trip to Canada. We are very much looking forward to your visit to Paul Kane High School. I hope that we are able to share with you as much as you shared with us.

With our deepest thanks, sincerely,

Ms. Liane Madsen
Assistant Principal

ポールケイン高校アンケート(抜粋)

秋葉原やスーパーコンピューター「K」が良かったです。また日本のテクノロジーや現代文化も非常に面白かったですが、日本の戦争の歴史についても興味を持ちました。広島平和記念資料館や原爆ドームはすごかったです。日本が好きです。必ずまた来たいと思います。
デービッド・ジョーダン・レイド (男子・15才)

この旅は人生を変えるような経験でした。日本は私が期待していた通り、そしてそれ以上のものでした。思っていたことと、かなり違う点もありましたが、この旅で悪いところはありませんでした。

宮島の古い歴史から、伝統芸術や原宿のポップカルチャー、ホームステイで学んだ田植などの手仕事まで、すっかり驚きました。

ずっと私は日本に非常に興味を持っていましたが、この旅行で一番良かったのは、長い間見てみたいと夢に思っていたことが、実際に見られたことです。

グループ主義の考えにも驚きました。日本人の中にはグループ主義を欠点と思う人もいるかもしれませんが、私には強みだと感じました。それがどうして始まったかということや、それがどんなものか学んでみたいと思いました。またカナダ人とは対照的に、日本人がいかに自分たちの文化に根ざしているかを見ることができました。(この点カナダはとても若い国です)
アイビー・リン・キース (女子・15才)

すべてこの訪問は素晴らしい経験でしたが、一番感動したのは、日本の生徒と過ごした時間、そしてホストファミリーと一緒に過ごした時間です。日本文化について私の目を開いてくれた経験でした。どんな風に人を受け入れ仲間にしてくれるか、見せてくれました。ホストファミリーも同じで、うちとけて迎え入れてくれました。友達やホストファミリーとお別れをするときは一番悲しい瞬間でした。ほんの数日しか彼らといなかったのに、こんな気持ちになったのは初めてです。

帰国するときに、皆さんが私にしてくれたような人を受け入れる姿勢を、持って帰りたいと思います。
クリストファー・エドワード・ダンクス (男子・16歳)

すべてに感動しました。この旅は、月並みに聞こえるかも知れませんが、これまでの人生の中で一番素晴らしい経験だったと思います。いままでカナダはおろか、家からもこんなに離れたところには行ったことがなかったので、素晴らしいことでした。でもこの旅は！まったくこの旅は！本当にすごかったです。文化も人々も、環境でさえもカナダとは本当

に違っていました。この経験ができてうれしかったです。

とりわけホームステイが気に入りました。自分的には、ホームステイのことを結構心配していましたが、というのも日本語が飛び抜けてできるというわけではないからです。でもホストファミリーもみなさんも、とてもいい人たちでした。カナダとは本当に違っていません。もちろんカナダ人もみんなすごくいい人です。でも知らない人には、普通話しかけません。私たちが会った生徒はみんなとても良くしてくれました。誰が誰だか覚えているわけではないのですが、みんなのことを決して忘れないでしょう。ホームステイとともに、旅で一番良かったことのひとつです。

他に良かったのは風景です。カナダには自然が多くあるのは本当ですが、ここの広々とした森林はただただ美しかったです。日本はビルと人だらけと思い込んでいたので、ある意味衝撃的でした。たくさんの人々が住んでいるけど、いっぱい自然もありました。これが非常に印象深かったです。

他に何かあるかといわれても絞りきれません。全部が全部すてきだったからです。この旅はとても素晴らしかったです。私の期待をはるかに超えるものでした。必ずまた来ます。友達や家族と一緒に連れてきて、この日本を見せたいと思います。日本語を磨いて、もっとこの場所について知りたいです。

大体こんな感じです。最高でした。絶対また来ます。おわり。

キーガン・リンゼイ・スザンナ・ホップズ（女子・17歳）

私は、日本のポップカルチャーのような現代の日本の知識だけをもって日本に来ました。日本を歩き回るうちに、もっとたくさんのことを学びました。そして広くなった目とずっと続く友だちとのつきあいとともに、日本を離れることになりました。

最初に実際に見た日本は岩国です。美しい自然や豊かな歴史に、今まで感じたことがないといってもいいくらい心を打たれました。私が一番はじめに感じた本当の日本は、大切なものでした。日本の豊かな文化や、深く祖先から伝わる思いといったことに気づきました。（岩国の交流先の高校で日本のみんなが写真を撮るときにした）ピースサインとか学生服、そしてもっと多くのことが日本にあります。宮島では日本文化に深く心を打たれました。

帰国したら、見てきたことをみんなに伝えたいです。美しくて興味の尽きないこの国を離れたくありませんし、正直言うと、日本に住むことも本当に考えています。人生を変えるような貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。

言葉は、私が今回見つけたもう一つの素晴らしい面でした。日本語は美しいです。ホームステイの間、日本語で会話をして、日本の歴史の精神を取り入れようと、たくさん

とをしました。

ナイアル・ルイズ・ヒューズ（女子・16歳）

この旅行で一番楽しかったのは、（高水高校での）学校見学と（生徒が体験させてくれた）プログラムです。第一に学校がデカかったのですが、でも何よりもすごかったのは、私たちを出迎えに駆けつけてくれたことです。いままでこんなに歓迎された気持ちになったことはありません。なので、みなホスピタリティーに驚きました。

一日中、学校の「仲間」と過ごしました。信じられないくらい良い人たちでした。みんな私を歓迎し、親しみを持っていてくれたのを感じましたし、一日中手助けをしてくれました。日本の生徒の英語力は見事で、ぜんぜん私の日本語より上手です。

本当に驚いたのは、日本文化が教育に取り入れられていることでした。実際、茶道、空手、剣道や書道は、生徒にとってとても大切なもの、文化です。

驚くことばかりでした。正直に言うと、この日が人生の経験の中で最高の日でした。

ミカ・アリス・バーンズ（女子・16歳）



DJポリス－言葉のカー

サッカー日本代表がワールドカップ（W杯）の出場を前回と同様、世界で一番に決めました。

6月4日の夜。前回は大騒ぎになった東京渋谷のスクランブル交差点において、巧みな話術を使って、若者たちに語りかけた、通称「DJポリス」。

皆さんも、テレビや新聞等で、ご存じだと思いますが、機動隊広報係のこの男性隊員と同様の活動を行った女性隊員の二人に、警視総監賞が授与されました。

「サポーターのみなさんは12番目の選手です。ルールとマナーを守って喜びをわかちあいましょう」

「通行妨害してはイエローカードですよ。2枚目が出る前に歩道に上がってください」

「目の前の怖い顔したおまわりさんも、みなさんが憎くてこういうことをやってるわけじゃありません。心の中ではきょうの日本代表のW杯出場を喜んでいるんです」

どの言葉も、ユーモアとウィットのある楽しい語り掛けですね。あらためて、言葉の持つ力、影響力そして言葉の大切さを感じました。



スポーツーオノマトペー

(番組趣旨より) 6月11日NHK番組 「クローズアップ現代」 より

「もちもち」、「ぼってり」、「どどーん」…こうした擬音語、擬態語＝オノマトペがいま、私たちの周りで「じゅわじゅわ」と増殖している。いったい何故なのか？番組では、オノマトペが増殖しているコンビニから国会、さらには医療現場からロボット研究の最先端まで訪ね、オノマトペ大増殖の謎を検証。浮かび上がってきたのは、＜音の爆弾＞とも称されるオノマトペがわたしたちの脳に働きかける「ドキッ」とするような不思議な力。そして、複雑化する社会のなかで、自分が感じている思いを表現するコトバが圧倒的に足りないと感じている人たちの姿だった。世界でも希に見るオノマトペ大国日本。日本語のミラクルワールド、オノマトペの魅力にぐぐぐぐぐと迫ります。

スポーツをしている時によく声を発している人がいます。

例を挙げると、テニスのマリア・シャラポワ選手の「ンアー！！」といったものや、卓球の福原愛選手の「サー！！」といったものなど・・・。

これらのような擬音語・擬態語・擬声語のことを、フランス語源でオノマトペと言います。スポーツをしている時に発せられる擬音語などのことをスポーツオノマトペと言います。

このスポーツオノマトペには、身体や運動機能の促進・制御に働きかけるといった作用もあり、どちらかという、言葉というよりも音に近いと言えます。また、スポーツオノマトペの機能と効果について見てみると、まず機能の面では、

- A 指導時にニュアンスを伝えやすかったり、動きを滑らかにイメージさせやすいといった機能
- B スポーツパフォーマンスの向上といった機能が挙げられます。

次に効果について見てみると、

- ① パワー、スピード ② リズム、タイミング ③ リラックス ④モチベーション
- ⑤ 威嚇・挑発など

といったものが挙げられます。

なかには声を出さなくても効果はあるものも存在します。

その他の効果としては、一つに、自分自身に声をかけることで、“勇気づける”“精神的なゆとりを与える”“理想的なパフォーマンスを実現させる”などといったプラスへの効果をもたらす「セルフトーク（独り言）」といった効果や、本当は効果がないとしても、思いこみや、繰り返し行うことで実際に本質的な心理変化として表れるようになるといった「プラセボ効果」といった効果なども存在します。

以上のように、「声」を使うことでメンタルトレーニングやスポーツ指導に、より一層の効果をもたらすことができます。ただし、指導において、言語を有効に使わないと効果は期待できません。(参考文献～「スポーツオノマトペ」藤野良孝(2008)～)